はじめに

本誌『コンタクト・ゾーン』は、人文科学ならびに社会科学で注目されている接触領域（コンタクト・ゾーン）についての研究を公表し、議論を活性化する場を提供するために企画された不定期刊行物として、2008 年に公刊された。当時、本誌は京都大学人文科学研究所・人文学国際研究センターの基幹プロジェクトである「複数文化接触領域の人文学」（田中雅一　代表）研究成果を報告する媒体であった。プロジェクトは修了し、その成果は『コンタクト・ゾーンの人文学』（4 巻）として 2012 年から翌 13 年にかけて出版されている。

本誌は、本号から出版拠点を人文科学研究所から大学院人間・環境学研究科（文化人類学分野）に移し、前号から以下の 3 点において編集体制を一新した。まず、文化人類学分野の教員と外部委員からなる編集委員会を組織した。つぎに、本誌の趣意に賛同する研究者に広く投稿を呼びかけるとともに、厳格な査読体制を導入した。最後に、より多くの読者に読まれることを期待してオンラインによる公刊を開始した。なお、本誌のバックナンバーもオンラインで公開した。

コンタクト・ゾーンは、アメリカの文学研究家のマリー・ルイーズ・プラットが『帝国のまなざし』（1992 年公刊）で使用したものとして知られている。彼女はヨーロッパを中心とする植民地宗主国（厳密には都市部であるメトロポリタン）と非ヨーロッパ諸国（およびヨーロッパの非都市部）との非対称的な、しかし一方的ではない、「接触」を主たるコンタクト・ゾーンとして想定している。ただし、本誌所収の諸論文から明らかなように、本誌では彼女の問題意識を継承しつつも、対象の拡大や地域（エリア）概念批判など、さらなる展開を目指していることをことわっておきたい。

本号は、京都人類学研究会が 2014 年 7 月に主宰したシンポジウム「呪術的実践 = 知の現代的諸相」（企画、成城大学・川田牧人）の発表に基づく特集論文を 4 本、また投稿論文を 6 本掲載している。対象も専門も異なるが、コンタクト・ゾーンという観点から研究対象に迫るという点で共通している。コンタクト・ゾーンに関わる書物を対象とする書評 14 本（一部著者によるリプライを含む）を併せて読んでいただければ幸いである。

編集にあたっては、引き続き金子守恵と朝日美佳の両氏にお世話になった。

田中雅一（編集代表）

2015 年 3 月